

(様式第4号)

令和6年度 第5回 上田市子ども・子育て会議 会議概要

1 審議会名	上田市 子ども・子育て会議
2 日時	令和6年11月15日(金) 午後1時30分から午後3時20分まで
3 会場	ひとまちげんき・健康プラザうえだ 2階 多目的ホール
4 出席者	酒井会長、長谷川副会長、浅川委員、飯島委員、大隅委員、片桐委員、勝見委員、金委員、清水委員、下村(久)委員、下村(敬)委員、高橋委員、八反田委員、宮下委員、宮本委員
5 市側出席者	翠川保育課保育担当政策幹、加々井子育て・子育て支援課長、戸谷母子・精神保健担当係長、中沢母子・精神保健担当係長、中村保育担当係長、大木保育担当係長、原障がい者支援担当係長、渡辺学校教育担当係長、宮下放課後子ども育成担当係長、高橋子育て・子育て支援担当係長、武井こども家庭福祉担当係長、谷口子育て・子育て支援担当主査
6 公開・非公開	☒ 公開 ・ ☐ 一部公開 ・ ☐ 非公開
7 傍聴者	0人
8 会議概要作成年月日	令和6年11月19日

協議事項等

- 1 開 会 (加々井子育て・子育て支援課長)
- 2 あいさつ (室賀健康こども未来部長 (加々井子育て・子育て支援課長代読))
- 3 議 事
 - (1) 第3次上田市子ども・子育て支援事業計画(上田市こども計画)(案)について【資料1】【参考資料】事務局から説明
(委員)

乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)の量の見込みと確保方策の算出方法はどのようなか。
(事務局)

乳児等通園支援事業は0歳6か月～3歳未満児の未就園児が1か月10時間まで、保育利用が可能な制度。国から示された算出方法は、対象年齢のこどもの見込み数全員が1か月10時間利用として算出となっているが、現実的ではない。市としては一時預かりの実績を基に、1日7名が利用する見込みで算出した。確保方策は今後検討するが、市としては一時預かりと似た運用としたい。
(委員)

現行の一時預かりでも断られることがあると聞くが、乳児等通園支援事業を開始できるのか。
(事務局)

先日、来年度の通常保育の受付が締め切りとなり、0歳児の申し込みが過去最多となった。まずは未満児預かりの通常保育を問題なく行ってまいりたい。
(委員)

一時預かりと乳児等通園支援事業の違いは何か。
(事務局)

一時預かりは理由が必要だが、乳児等通園支援事業は理由が不要な制度。ただし、市の一時預かりは仕事やリフレッシュ理由も認め、理由の範囲を広く運用している。預かり可能な時間等についても一時預かりの方が制度としては充実したものと捉えている。
(委員)

乳児等通園支援事業は市民へわかりやすい説明をお願いしたい。
不登校対策については、県が信州型フリースクール認証制度を実施している。学校とは異なる、広い視野で子どもを支えることが重要。

(事務局)

市としても、不登校児童生徒を学校に戻すことが全てではなく、こどもの自立を促す取組になってきている。民間施設との連携も引き続き取り組んでまいりたい。

(委員)

一時預かりについて、出産3か月を過ぎると月12日の利用が月4日になる。本当に育児が大変なのは動き始めたり離乳食の始まる出産3か月以降であり、そこに対して手厚いサポートがあるといいと考えるがいかがか。

(事務局)

出産理由は月12日までの利用が可能で、その期間が終了するとリフレッシュ理由となり月4日に変更となる。一時預かりの回数が増えれば子育て支援になるものの、保育園の受け入れ枠も厳しく、すぐの実施は難しい。

(委員)

枠の増加を今後も検討いただきたい。

(委員)

いじめ・不登校に関する市の状況数値がないように見受けられる。センシティブな部分であり公表が難しければデータの把握はしていただきたい。

(事務局)

データ把握は行っており、計画（案）第4章の【現状と課題】の部分で述べるよう、修正を行う。

(委員)

保育園から小学校といった、つなぎ目の支援が重要。インクルーシブセンターについてご教示願いたい。

(事務局)

まずは発達相談センター及び教育相談所を一体化し、0歳～18歳までのワンストップ窓口とする予定。

(委員)

計画期間が長期にわたるものとなっているが、各事業の今後の工程やスケジュールの開示はあるか。

(事務局)

各事業の実績数値を毎年度の子ども・子育て会議でお示しする予定。

(委員)

すべての事業が令和7年度に実施されているのか。

(事務局)

計画期間内の開始または計画期間前からの継続や拡充である。

(委員)

市内のこどもの自殺について、年齢や理由の内訳は把握しているか。

(事務局)

市内のこどもの自殺者数の公表はしていないが、10代が少しずつ増加してきている。県においても全国と比較しても多い状況で、対策を考えてる。

(委員)

ワクチン接種がどのようなものか、過去の経緯や今後も含め、保護者にわかるような情報提供を希望する。

(事務局)

学校教育の中でも、保護者を含め、情報提供の機会を設けてまいりたい。

(委員)

本計画について市民への周知についてはどう行うか。

(事務局)

概要版を作成、市ホームページに掲載する等、様々な場で周知を行っていききたい。

(委員)

社会づくりへの参画を市民に促せるような取り組みを期待する。

(委員)

保育に関して「サービス」という、受けなければ損というように捉えられる考え方ではなく、こどもを共に育てていくという視点に立って議論を進めてほしい。

(委員)

計画に掲載されている事業の予算は決定しているか。

(事務局)

予算が確定しているものばかりではないが、事業の方向性を示すものをご理解いただきたい。

(委員)

若者までを本計画に含めるとあるが、基本理念にある「こどもまんなか」の意図は何か。

(事務局)

こども家庭庁によるキャッチフレーズとして捉えていただきたい。

(委員)

若い保護者や中高生に向け、子育て支援に関してホームページのみにとどまらず、SNS での発信を期待する。若者向けコンテンツも検討いただきたい。

(事務局)

LINE の活用やうえだ家族との連携等、SNS の活用を図ってまいりたい。

(事務局)

本日の意見をもとに今後、修正を行う部分に関しては、正副会長一任としてよろしいか。

(全委員)

異議なし。

(2)「第三次 上田市総合計画」策定に伴う分野別意見聴取等について【資料2】【別紙】

事務局から説明

(委員)

出産祝金給付について、現金給付ではなく、他自治体で行っているタクシーチケットやベビーシッターチケットとするなど、子育てに他者が介入できるきっかけとできないか。

(事務局)

見直しを随時行い、検討してまいりたい。

4 その他

次回日程

令和7年2月4日(火) 午後1時30分から 健康プラザうえだ2階多目的ホール

5 閉会